# 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録後の展望と課題



#### **DATA**

- 主な連携先・メンバー
- 堺市役所文化財課/関西大学学長室学長課/関西大学考古学研究室
- 大阪府堺市/関西大学千里山キャンパス
- 活動期間
- 2018年度~2019年度
- ■活動資金
- 堺市と関西大学との地域連携事業/学長裁量経費

## 活動の目的

百舌鳥古墳群の世界遺産としての価値の共有を図り、すでに世界遺産に 登録された遺産の現状や課題について精査したうえで、望ましい保存および 活用方法についての方向性を探る



#### 連携にいたる経緯

堺市に所在する百舌鳥古墳群の本格的な学術的研究は、1950年ころから関西大学名誉教授 末永雅雄によって始められたもので、その後、本学考古学研究室が重要な調査を手がけてきた。 今回の世界文化遺産登録には本学の学術研究成果が深く寄与していること、また堺市文化財課 および世界文化遺産推進室に本学卒業生が在職していることが契機となった。



### 活動内容

まず、世界遺産登録後の現状と課題について把握することを目的として、すでに登録された国 内外の世界遺産を対象に現地視察をおこなった。2018年度は、大韓民国の「慶州歴史地域」 (2000年登録)の5地区のうち、百舌鳥古墳群とほぼ同時期の古墳から構成される大陵苑地区 を中心に、皇龍寺地区と月城地区を視察。2019年度には「『神宿る島』宗像・沖ノ島」を視察し た。同遺産は、2017年に世界遺産に登録され、「百舌鳥・古市古墳群」とも登録年が近く、直接 的に参考となる遺産である。これらの調査により世界文化遺産登録後の課題について、参考と なる事例が確認できた。例えば、百舌鳥・古市古墳群の構成資産の多くが実態の明らかでない 現状に対し、「慶州歴史地域」のように、継続的な発掘調査および復元・整備事業を進めていく のかどうかである。またアクセス面、ガイダンス施設の整備等の課題への参考事例もあった。

そして、「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録が決まった直後の2019年7月15日・28日の 両日に、シンポジウム「世界文化遺産へのあゆみ 百舌鳥・古市古墳群と関西大学」を開催した。







## 口活動の成果

- 1 シンポジウムを通じて、将来にわたって百舌鳥・古市古墳群 をどのように保存していくのか、観光振興との両立が可能かに ついて、それぞれの立場から議論し、今後の課題について整理 することができた。また、これらの課題について、シンポジウム 参加者の堺市民や大阪府民の方々と共有することができた
- 7 「百舌鳥・古市古墳群」と本学のつながりが深いことを再認識 するとともに、今後果たすべき学術的貢献について考える機会 となった

# Q 今後の課題・目標

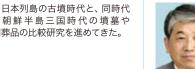
- 15年後、10年後といった中・長期的な視野に立った 世界遺産の保存と活用の方向性を検討する
- 2 日本のみならず、東アジアにおける世界遺産の 現状と課題について精査し、保存と活用の参考事例 とする

#### 教 | 員 | 紹 | 介



文学部 准教授

の朝鮮半島三国時代の墳墓や 副葬品の比較研究を進めてきた。



文学部 教授

米田文孝

仏教が日本に来た道をもとめて約25 年、仏教のはじまりの地であるインド共 和国で調査を行ってきた。その後、ユー ラシア大陸を東にすすみ、仏教が日本で 最初におこった奈良県の飛鳥の地にたど り着いた。倭国・日本国の都であった飛鳥 の姿を一度目にしたいと夢想している。

井上主税